



# 令和5年度調布市立学校における児童・生徒のいじめ・不登校等の調査報告について

令和6年11月22日  
調布市教育委員会指導室

資料3

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

調布市立小・中学校における児童・生徒のいじめ・不登校等の実態を把握し、それぞれの未然防止、早期発見、早期対応の充実を図る。

### (3) 調査項目（文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の定義による）

#### 【いじめ】

○ 児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。（いじめ防止対策推進法）

#### 【不登校】

○ 令和6年3月31日現在の在学者のうち、「児童・生徒指導要録」の「欠席日数」欄の日数により、令和5年度間に連続又は断続<sup>※</sup>して30日以上欠席した児童生徒数  
○ 何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）の数  
※ 断続・・・時々とぎれながら続くこと

### (2) 調査の概要

・令和5年度における各校の「いじめ」「不登校」「暴力行為」の実態を把握するため、令和6年4月に実施。  
・調査は、教員が回答

#### 【暴力行為】

○ 自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為（「対教師暴力（教師に限らず、用務員等の学校職員も含む。）」「生徒間暴力（何らかの人間関係がある児童生徒同士に限る。）」「対人暴力（対教師暴力、生徒間暴力の対象者を除く。）」「器物破損（学校の施設・整備等）」）  
※ ただし、家族・同居人に対する暴力行為は、調査対象外とする。

## 2 調布市教育プランとの関連

### (1) 施策及び主な取組

施策1 【豊かな心の育成】＜主要事業 1 命を大切に教育の推進 2 人権教育の推進 3 いじめの防止と対応 4 道徳教育の推進＞

主な取組 ○ 「命」の授業及び「いのちと心の教育」月間の取組等、児童生徒が主体的に考える取組の推進

○ 人権教育全体計画・年間指導計画に基づく取組の推進 ○ 主体的に考え、議論する道徳授業の充実 ○ 道徳授業地区公開講座の実施

施策4 【個に応じたきめ細かな支援】＜主要事業 13 不登校児童・生徒への支援 14 個に応じたきめ細かな教育相談の充実＞

主な取組 ○ 自己存在感や充実感等が感じられる「居場所づくり」や、主体的に取り組む協働的な活動を通じた「絆づくり」の充実など、不登校の未然防止のための魅力ある学校づくりの推進 ○ 教育相談の充実と関係機関との連携

### (2) 成果指標

「いじめはどんな理由があってもいけないこと」を理解した児童・生徒の割合

校種	目標値	R3	R4	R5
小学校	100%	96.2%	95.6%	95.3%
中学校	100%	94.7%	95.6%	93.9%

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施

## 3 いじめ・不登校等の実態

いじめ	認知件数 (件)								
	小学校			中学校					
年度	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
全国	500,562	551,944	588,930	97,937	111,404	122,703			
東京都	54,210	59,357	62,755	5,560	6,841	6,822			
調布市	1,542	1,786	1,188	202	346	250			
R4 学年別いじめの認知件数									
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
353	339	331	308	278	177	193	109	44	
R5 学年別いじめの認知件数									
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
202	210	248	193	185	150	115	76	59	

全ての小・中学校でいじめを認知している。認知件数は小学校で1,188件、中学校で250件であり、令和4年度と比べて減少した。いじめの態様は、小・中学校共に「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く（小学校892件、中学校178件）。次いで、小学校では「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」（158件）、中学校では「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられたりする」（33件）が多い。

不登校	出現率 (%)								
	小学校			中学校					
年度	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
全国	1.30	1.70	2.14	5.00	5.98	6.71			
東京都	1.33	1.78	2.21	5.76	6.85	7.80			
調布市	1.41 (161)	1.84 (210)	1.99 (231)	4.23 (186)	5.66 (254)	7.43 (330)			
R4 学年別不登校児童・生徒数									
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
13	25	27	36	42	67	82	87	85	
R5 学年別不登校児童・生徒数									
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
17	25	31	42	54	62	103	118	109	

不登校児童・生徒数は、小学校231人（出現率1.99%）、中学校330人（出現率7.43%）であり、令和4年度と比べて中学校で特に増加している。小学校では学年が上がるにつれて増加しているのに対し、中学校では学年間の差はみられない。不登校について学校が把握した事実として最も多いものは「不安・抑うつ相談があった」（小学校74人、中学校176人）であり、次いで、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった」（小学校58人、中学校56人）が多い。

暴力行為	発生件数 (件)								
	小学校			中学校					
年度	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
全国	48,138	61,455	70,009	24,450	29,699	33,617			
東京都	1,249	1,904	1,964	861	976	1,343			
調布市	22	31	88	30	55	22			
R4 学年別加害児童・生徒数									
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
5	6	3	5	6	6	29	16	6	
R5 学年別加害児童・生徒数									
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
5	3	2	4	22	10	3	10	9	

暴力行為の発生件数は、小学校88件、中学校22件であり、令和4年度と比べて、小学校で増加し、中学校で減少した。内訳としては、「児童・生徒間暴力」が最も多く（小学校52件、中学校11件）、次いで「器物損壊」が多い（小学校22件、中学校10件）。学年別に見ると、小学5年生が最も多く（22人）、小学6年生及び中学2年生がその次に多い（10人）。小学校では、特定の児童による複数回にわたる暴力行為が見られた。

## 4 今後の取組

いじめ	不登校	暴力行為
<p>(1) 教育委員会の取組</p> <p>○年2回、全校を対象とした「ふれあい（いじめ防止強化）月間」の実施を通して、各学校の取組状況をまとめ、PDCAサイクルの中で改善を図れるようにする。</p> <p>○学校が速やかに専門家と連携した支援を開始できるようにするため、スクールソーシャルワーカーの配置日数の増加について検討する。</p> <p>(2) 学校の取組</p> <p>○いじめに関する授業を年3回以上計画し、確実に実施する。</p> <p>○いじめ事案に関する児童・生徒の実態や指導の経過等の情報を、「情報共有シート」に入力し、校内で共有する体制を構築する。</p> <p>○保護者に対して、保護者会や学年便り、ホームページ等を活用し、「学校いじめ防止基本方針」の内容について周知する。</p> <p>○学校運営協議会の委員等に、「学校いじめ防止基本方針」の内容を説明するなどして、連携・協力体制を構築する。</p> <p>○学校評価の評価項目に、いじめ問題への適切な対応に関する内容を位置付け、その結果を基に、学校のいじめ対策の取組を見直す。</p>	<p>(1) 教育委員会の取組</p> <p>○「調布市不登校児童・生徒への支援プラン」（令和6年3月）に基づき、不登校生徒の居場所を拡充するため、中学生を対象とした適応指導教室（教育支援センター）を市内に新たに開設する。</p> <p>○学校に行きづらい児童・生徒が安心して登校し、過ごせるための居場所を充実させるため、各学校における校内別室の設置・充実に向けた取組を支援する。</p> <p>(2) 学校の取組</p> <p>○全ての児童・生徒が学校を魅力ある場所と感じられるようにするために、自己肯定感や自尊感情を高める指導（「居場所づくり」と「きずなづくり」）の充実を図る。</p> <p>○一人1台端末を活用した学習支援、心の状況の把握などを通して、児童・生徒が学校とつながっている安心感と学習保障の充実を図る。</p> <p>○不登校児童・生徒への適切な支援を行うため、定期的に支援会議を開催するとともに、「児童・生徒支援個別票」を作成し、全教職員で共通理解を図る。</p> <p>○中学校においては、不登校対応巡回教員と学級担任等が連携し、不登校生徒への電話連絡や家庭訪問、保護者との面談、別室支援の生徒への対応強化を図る。</p>	<p>(1) 教育委員会の取組</p> <p>○「生活指導主任会」をはじめとする連絡会や研修会の機会を通じて、児童・生徒に対するきめ細かな生活指導の徹底が図られるよう、指導・助言を行う。</p> <p>○ストレスマネジメントやアンガーマネジメントをテーマにした教員対象の研修会を実施し、教員の児童・生徒への対応力向上を図る。</p> <p>(2) 学校の取組</p> <p>○日頃から、他人の心身を傷付ける暴力行為をしてはならないことを、児童・生徒に繰り返し指導する。</p> <p>○全ての教職員で、生活指導の目標や方針、指導基準の共通理解を図り、一貫性のある対応ができる校内指導体制を構築する。</p> <p>○スクールサポーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の人材を活用し、複数の大人が児童・生徒のSOSを受け止められるようにする。</p> <p>○実際に暴力行為が起こった場合は、学級担任が一人で抱え込むのではなく、複数の教職員で事実確認、原因・背景を把握し、暴力行為を起こした児童・生徒及びその保護者に丁寧な指導・支援を行う。</p>

## ※ 不登校の状況把握に係る調査項目の変更について

令和4年度までの調査においては、学校が認識している児童・生徒の「不登校の要因」を回答する形式であったが、不登校の状況をより正確に把握するため、令和5年度の調査においては、学校が「不登校児童・生徒について把握した事実」を回答する方式に変更された。

令和5年度																													
調査内容	不登校児童・生徒について把握した事実																												
回答方法	学校が不登校児童・生徒について把握した事実を複数選択 (例)「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった。」 「学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた。」																												
回答区分	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>いじめの被害の情報や相談があった。</td></tr> <tr><td>2</td><td>いじめ被害を除く友人関係をめぐる問題の情報や相談があった。</td></tr> <tr><td>3</td><td>教職員との関係をめぐる問題の情報や相談があった。</td></tr> <tr><td>4</td><td>学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた。</td></tr> <tr><td>5</td><td>学校の決まり等に関する相談があった。</td></tr> <tr><td>6</td><td>転編入学, 進級時の不適応による相談があった。</td></tr> <tr><td>7</td><td>家庭生活の変化に関する情報や相談があった。</td></tr> <tr><td>8</td><td>親子の関わり方に関する問題の情報や相談があった。</td></tr> <tr><td>9</td><td>生活リズムの不調に関する相談があった。</td></tr> <tr><td>10</td><td>あそび, 非行に関する情報や相談があった。</td></tr> <tr><td>11</td><td>学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった。</td></tr> <tr><td>12</td><td>不安・抑うつ等の相談があった。</td></tr> <tr><td>13</td><td>障害(疑いを含む)に起因する特別な教育的支援の求めや相談があった。</td></tr> <tr><td>14</td><td>個別の配慮(13以外)についての求めや相談があった。</td></tr> </table>	1	いじめの被害の情報や相談があった。	2	いじめ被害を除く友人関係をめぐる問題の情報や相談があった。	3	教職員との関係をめぐる問題の情報や相談があった。	4	学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた。	5	学校の決まり等に関する相談があった。	6	転編入学, 進級時の不適応による相談があった。	7	家庭生活の変化に関する情報や相談があった。	8	親子の関わり方に関する問題の情報や相談があった。	9	生活リズムの不調に関する相談があった。	10	あそび, 非行に関する情報や相談があった。	11	学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった。	12	不安・抑うつ等の相談があった。	13	障害(疑いを含む)に起因する特別な教育的支援の求めや相談があった。	14	個別の配慮(13以外)についての求めや相談があった。
1	いじめの被害の情報や相談があった。																												
2	いじめ被害を除く友人関係をめぐる問題の情報や相談があった。																												
3	教職員との関係をめぐる問題の情報や相談があった。																												
4	学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた。																												
5	学校の決まり等に関する相談があった。																												
6	転編入学, 進級時の不適応による相談があった。																												
7	家庭生活の変化に関する情報や相談があった。																												
8	親子の関わり方に関する問題の情報や相談があった。																												
9	生活リズムの不調に関する相談があった。																												
10	あそび, 非行に関する情報や相談があった。																												
11	学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった。																												
12	不安・抑うつ等の相談があった。																												
13	障害(疑いを含む)に起因する特別な教育的支援の求めや相談があった。																												
14	個別の配慮(13以外)についての求めや相談があった。																												



令和4年度まで																			
調査内容	不登校の要因																		
回答方法	学校の認識に基づき, 不登校の要因と考えられる主たるものを1つ選択 (例) 「無気力, 不安」																		
回答区分	<table border="1"> <tr> <td rowspan="8">学校に係る状況</td> <td>いじめ</td> </tr> <tr> <td>いじめを除く友人関係をめぐる問題</td> </tr> <tr> <td>教職員との関係をめぐる問題</td> </tr> <tr> <td>学業の不振</td> </tr> <tr> <td>進路に係る不安</td> </tr> <tr> <td>クラブ活動, 部活動等への不適応</td> </tr> <tr> <td>学校のきまり等をめぐる問題</td> </tr> <tr> <td>入学, 転編入学, 進級時の不適応</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">家庭に係る状況</td> <td>家庭の生活環境の急激な変化</td> </tr> <tr> <td>親子の関わり方</td> </tr> <tr> <td>家庭内の不和</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">本人に係る状況</td> <td>生活リズムの乱れ, あそび, 非行</td> </tr> <tr> <td>無気力, 不安</td> </tr> <tr> <td colspan="2">上記に該当なし</td> </tr> </table>	学校に係る状況	いじめ	いじめを除く友人関係をめぐる問題	教職員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動, 部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐる問題	入学, 転編入学, 進級時の不適応	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	親子の関わり方	家庭内の不和	本人に係る状況	生活リズムの乱れ, あそび, 非行	無気力, 不安	上記に該当なし	
学校に係る状況	いじめ																		
	いじめを除く友人関係をめぐる問題																		
	教職員との関係をめぐる問題																		
	学業の不振																		
	進路に係る不安																		
	クラブ活動, 部活動等への不適応																		
	学校のきまり等をめぐる問題																		
	入学, 転編入学, 進級時の不適応																		
家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化																		
	親子の関わり方																		
	家庭内の不和																		
本人に係る状況	生活リズムの乱れ, あそび, 非行																		
	無気力, 不安																		
上記に該当なし																			